

■小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院 日数(自院)	平均在院 日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他) 定義副傷病なし	167	5.87	6.47	0.6	1.1	
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害(出生時体重2500g以上) 手術なし 手術・処置等2なし	163	7.8	6.13	4.91	0	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	136	4.72	6.46	0.74	2.54	
080270xxxx0xxx	食物アレルギー 手術・処置等1なし	80	1.11	2.44	0	2.6	
180030xxxxxx0x	その他の感染症(真菌を除く。) 定義副傷病なし	77	5.47	10.76	0	2.23	

当院の小児疾患は感染症が多く、特に呼吸器感染症もしくは、それに誘発された呼吸器疾患が多いのが特徴です。
急性細気管支炎などは乳児に多く、急激に呼吸状態の悪化を来たしやすく、
また喘息の発作も夜間に多いこともあり、両疾患は夜間救急受診が多くなっています。
これは当院が24時間小児救急病院であることも関係しています。

■外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院 日数(自院)	平均在院 日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
060150xx03xxxx	虫垂炎 虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの等	56	4.73	5.44	0	34.18	
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア（15歳以上） ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	54	3.96	4.86	0	65.85	
090010xx02xxxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	54	4.76	6.02	1.85	60.76	
060330xx02xxxx	胆嚢疾患（胆嚢結石など） 腹腔鏡下胆嚢摘出術等	53	5.98	6.41	0	58.98	
060150xx99xx0x	虫垂炎 手術なし 定義副傷病なし	50	5.32	7.17	0	32.92	

急性虫垂炎は、緊急手術のほとんどを腹腔鏡下で行っています。また、手術をせずに抗生剤投与で軽快した虫垂炎も、待機的に腹腔鏡下虫垂切除を行う場合がほとんどです。胆石症(胆嚢炎)では、症状発症3日以内では、早期手術として腹腔鏡下胆嚢摘出術を行います。それ以外は胆嚢炎を抗生剤投与で軽快させて、待機的(3ヶ月後以降)に腹腔鏡下胆嚢摘出術を行うケースがほとんどです。また、当院は地域がん診療連携拠点病院として地域の医療機関との連携も強化しており、悪性腫瘍患者の紹介も積極的に受け入れております。悪性疾患では乳がんに対する乳腺悪性腫瘍手術が一番多く、変形の目立たない乳房温存手術が主流です。

■整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院 日数(自院)	平均在院 日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	124	26.65	25.09	70.16	81.23	
160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）手術なし	83	17.57	18.81	67.47	82.4	
070343xx97x0xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）腰部骨盤、不安定椎 その他の手術あり 手術・処置等2なし	77	17.29	16.1	6.49	68.13	
070343xx01x0xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）腰部骨盤、不安定椎 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）前方椎体固定等 手術・処置等2なし	61	19.34	20.4	19.67	69.3	
070341xx020xxx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）頸部 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）前方椎体固定等 手術・処置等1なし	48	21.98	19.9	22.92	67.63	

当院は、24時間365日体制で救急患者の診察を行っています。救急告示病院の為、外傷疾患の受診が多く、なかでも一番多いのが、高齢者の股関節大腿近位骨折です。合併症が無ければクリニカルパスを利用して、受傷後1週間以内の早期手術と術後早期のリハビリテーションを行っております。次に多いのが、腰部脊柱管狭窄症・椎間板ヘルニアや頸椎症性脊髄症で、これらの疾患は、当院が地域医療支援病院であることから近隣のクリニックからの紹介受診が多く、こちらも受傷後の早期手術と早期リハビリテーションを行っています。胸椎や腰椎の骨折は大半が手術では無く、疼痛緩和を主体とした保存的加療を行っています。

■脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
010060x2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）手術なし手術・処置等1なし手術・処置等24あり定義副傷病なし発症前Rankin Scale 0、1又は2	89	15.27	15.64	25.84	69.3	
010030xx9910xx	未破裂脳動脈瘤手術なし手術・処置等1あり手術・処置等2なし	60	2.5	3.04	0	57.53	
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満）手術なし手術・処置等1なし手術・処置等2なし定義副傷病なし	51	19.76	18.86	54.9	66.88	
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷手術なし手術・処置等2なし定義副傷病なし	34	13.56	8.18	29.41	60.26	
010030xx03x0xx	未破裂脳動脈瘤脳血管内手術手術・処置等2なし	32	9.28	9.69	0	60.44	

入院される方の約半数は、脳腫瘍等や血管障害、機能的疾患に対する計画的な検査や治療で、血管内治療、バイパスや頭蓋底外科とその応用が当科の特徴になっています。一方で、入院のおよそ50%は、突然発症する脳梗塞、脳出血、くも膜下出血といった脳卒中への対応で、これに関しても、当科の運営する24時間体制の「脳卒中センター」でその対応にあたっています。早期から脳卒中センター医が診療を行うことで、時間との勝負である脳梗塞に対するt-PA投与やカテーテルによる血栓回収療法といった超早期治療、緊急開頭術などの適応判断と実施を行い奏効しています。また、これらの急性期治療とともにリハビリテーションについても早期から積極的に取り組み、回復期および維持期の地域の病院・医院やクリニックとの連携に力を入れています。

■産婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院 日数(自院)	平均在院 日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 子宮全摘術等	61	8.82	9.45	0	33.77	
120230xx02xxxx	子宮の非炎症性障害 子宮鏡下子宮中隔切除術、子宮内腔癒着切除術 (癒着剥離術を含む。)等	56	1.39	2.49	0	54.07	
120170x199xxxx	早産、切迫早産(妊娠週数34週未満) 手術なし	35	22.4	21.68	5.71	30.91	
12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部(腔部)切除術等 手術・処置等2 なし	34	4.06	3.11	0	44.47	
120260xx01xxxx	分娩の異常 子宮破裂手術等	30	9.5	9.45	0	31.43	

当院では、地域周産期センターとしての役割の元に多胎や切迫早産などの管理を多く行っており、場合によっては帝王切開術を要することも多い状況です。不正性器出血精査目的の紹介も多いため、精査目的の入院が増えています。その後に、子宮体がんと診断され子宮体部悪性腫瘍手術を要する症例も見られます。

また、子宮頸部上皮内腫瘍に対する円錐切除術も行っております。近隣で婦人科良性腫瘍の手術を行う施設が減っていることから、卵巣および子宮の良性腫瘍に対する手術も増えており、特に卵巣の腹腔鏡下手術目的の入院も増えています。

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等 1 なし	84	12.8	12.87	8.33	65.05	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等 1 なし	30	4.07	4.06	0	38.9	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 なし	17	6.65	7.71	0	83.12	
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	15	9.4	9.12	0	71.53	
080006xx97x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） その他の手術あり 手術・処置等 2 なし	12	10.42	9.86	8.33	73.08	

蜂窩織炎を主とする皮膚感染症が多数を占めます。皮膚感染症のうち切開術を要するものは、処置などの必要性から在院日数が伸びる傾向にあります。手術加療にも積極的に取り組み、悪性腫瘍のほか、糖尿病性足病変の手術加療症例が増加傾向にあります。

■泌尿器科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院 日数(自院)	平均在院 日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり	60	3.73	2.54	1.67	72.88	
110070xx03x20x	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 2 2 あり 定義副傷病なし	53	7.42	7.05	0	73.38	
11012xxx97xx0x	上部尿路疾患 その他の手術あり 定義副傷病なし	42	8.21	7.26	9.52	71.6	
110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 2 あり 定義副傷病なし	35	5.94	9.96	0	76.74	
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	32	13.13	13	0	67.47	

当院はがん診療拠点病院の為、早期の腎がんや腎盂・尿管がんの患者さんが多く、手術はより傷が小さく負担の少ない腹腔鏡下手術による治療を行っております。経尿道的尿管ステント留置術は、尿管結石に合併した尿路感染症や消化器内科、婦人科の進行がん及び悪性リンパ腫等によって尿管狭窄を来した患者さんへの対症療法として施行する機会が多く、クリニックからの紹介の多い尿管結石に対しては、レーザーによる経尿道的尿管結石除去術を行っています。

地域の中核病院としてより質の高い医療を提供し、地域医療に貢献したいと思っています。

■呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり 手術・処置等 2 なし	42	3.45	3.39	0	71.12	
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4 あり 定義副傷病なし	36	8.86	9.42	0	63.28	
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等 2 なし	33	21.91	18.61	9.09	71.15	
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	21	17.9	13.3	19.05	72.62	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	13	7.31	6.46	0	56.15	

呼吸器内科は、胸部異常陰影の精査依頼の紹介患者さんが多く、従って肺がん患者の診療が増加する傾向にあります。一方、肺炎や胸膜炎、喘息発作などの急性呼吸器疾患などへの治療、および慢性閉塞性肺疾患(COPD)や間質性肺炎などの慢性呼吸器疾患の治療と並行して、難治性咳嗽や呼吸困難等で紹介された呼吸器疾患への精査等、幅広く呼吸器疾患の診療を行っています。また、老人保健施設等の入所者の受診も多く、高齢者の誤嚥性肺炎を含め、加齢に伴う多彩な合併疾患のある患者さんも受け入れており、全体の平均年齢は70歳台ですが、10歳台の若年者から100歳以上の超高齢の方まで、幅広い年代の患者さんの診療に対応しています。さらに、他院で診断困難な縦隔リンパ節生検や、難治性喘息患者さんへの気管支サーモプラティーを導入するなど、遠隔地や離島からの紹介患者さんも数多く受け入れております。

■循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院 日数(自院)	平均在院 日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
050070xx01x0xx	頻脈性不整脈 経皮的カテーテル心筋焼灼術 手術・処置等2なし	112	6.07	4.95	0.89	67.37	
050050xx9910xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1 1あり 手術・処置等2なし	102	4.04	3.07	2.94	70.9	
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	91	15.69	13	12.09	76.56	
050130xx9900xx	心不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	82	17.44	17.23	14.63	86.01	
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1なし、1,2あり 手術・処置等2なし	64	5.22	4.44	4.69	71.47	

当科では、虚血性心疾患を背景とした狭心症や心不全での入院が最も多く、その約半数にカテーテル検査や治療を行っています。これに次いで多いのが、心房細動や頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療による入院です。急性心筋梗塞に対しての緊急カテーテル治療も行っています。

■腎臓内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	26	22.73	13	7.69	75.81	
110280xx9900xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	21	9.48	11.04	4.76	69.67	
100393xx99xxxx	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害 手術なし	18	8.78	10.33	0	67.56	
180010x0xxx0xx	敗血症（1歳以上） 手術・処置等2なし	17	19.35	19.2	17.65	76.41	
110280xx9901xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり	15	9.33	14.01	0	68.67	

腎臓又は尿路の感染症は比較的多くみられる感染症ですが、敗血症合併することがあり、そのような場合は、入院下での長期の抗菌薬経静脈投与が必要となります。また、急性巣状細菌性腎炎や腎膿瘍に至る症例は、その治療期間が1ヶ月もしくはそれ以上を要することもあり、入院期間はさらに長期化しています。膠原病などの自己免疫疾患は自院症例だけでなく、かかりつけ医からの紹介例も多く含まれます。肺、腎など多臓器にわたる重篤障害を来すことがあり、呼吸不全から人工呼吸器管理、腎不全から透析療法などが必要となることもあります。免疫抑制剤の使用に伴う感染症・骨髄抑制などの合併症併発、治療も血漿交換など特殊透析を要する症例もあり、入院は長期化する傾向にあります。慢性腎炎症候群などは、自院症例だけでなく、かかりつけ医からの紹介例も多く受けています。腎生検施行から免疫抑制剤使用による治療、経過中に合併症発症あればその対処まで含まれます。治療は終生にわたることが多く、治療反応性を確認しながら治療内容も調整していくため、入院は長期化する傾向にあります。体液・電解質異常・酸塩基平衡障害は比較的多くみられる高齢者の低ナトリウム血症から、尿細管性アシドーシスなどの比較的まれな症例まで含みます。電解質補正のために時間を要することが多く、また比較的まれな症例は、その診断のために煩雑な負荷試験を要し、入院期間は長期化する傾向にあります。特に高齢者の場合、いずれの前述した病態でも廃用性障害の併発や認知機能低下が進むことがあり、これも入院期間が長期化する一因と考えられます。

■血液内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
130030xx99x5xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等 2 5 あり	48	23.48	20.27	10.42	69.21	
130030xx97x50x	非ホジキンリンパ腫 手術あり 手術・処置等 2 5 あり 定義副傷病なし	22	35.05	31.9	18.18	70.14	
130010xx97x2xx	急性白血病 手術あり 手術・処置等 2 2 あり	14	50.93	38.35	0	62.71	
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	—	—	13	—	—	
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等 2 なし	—	—	20.51	—	—	

血液内科では悪性リンパ腫、急性白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液悪性腫瘍の患者さんが多く入院します。B細胞性リンパ腫は悪性リンパ腫の中で最も多いタイプであり、リツキシマブという分子標的療法薬による化学療法を短期入院で3週間毎に繰り返します。急性白血病は1回の化学療法につき1ヶ月から1ヶ月半の入院治療を要することが多く、4~5回程度繰り返します。いずれの疾患でも化学療法は短期入院が基本ですが、離島の患者さんでこまめな通院が困難な場合は1回2ヶ月程度の長めの入院となる患者さんもいます。

■消化器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院 日数(自院)	平均在院 日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）内視鏡的大腸ポリープ・ 粘膜切除術	114	2.61	2.66	1.75	66.74	
060102xx99xxxx	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患 手術なし	82	8.29	7.74	1.22	68.27	
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	75	13.31	13	12	73.33	
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	48	10.77	9.53	12.5	78.56	
060350xx99x00x	急性膵炎 手術なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	48	11.58	10.78	2.08	51.08	

消化器内科は、消化管と肝臓、胆嚢、胆管、膵臓疾患の患者さんを主に担当しています。早期大腸がん及び、ポリープ切除や大腸憩室炎が最も多い疾患となっています。内視鏡などで胆石除去を行う事も多い胆石、胆管炎の患者さんも多く入院しています。

■糖尿病内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
10007xxxxxx1xx	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）手術・処置等2 1あり	55	15.93	14.6	3.64	63.82	
100180xx990x0x	副腎皮質機能亢進症、非機能性副腎皮質腫瘍 手術なし 手術・処置等 1なし 定義副傷病なし	26	4.69	6.26	0	60.85	
100040xxxxx00x	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡 手術・処置等2なし 定義 副傷病なし	18	15.56	13.33	5.56	59.11	
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	—	—	13	—	—	
100393xx99xxxx	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害 手術なし	—	—	10.33	—	—	

2型糖尿病患者さん及び、副腎腫瘍の患者さんの数が多い。原発性アルドステロン症のスクリーニングで異常の認められる患者さんの増加に伴い、ホルモン検査目的で入院される患者さんの数も多い。

■総合内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院 日数(自院)	平均在院 日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	26	13.08	13	11.54	72.88	
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等 2 なし	19	17.32	20.51	10.53	86.16	
180010x0xxx0xx	敗血症（1歳以上） 手術・処置等 2 なし	—	—	19.2	—	—	
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	—	—	4.94	—	—	
050130xx9900xx	心不全 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	—	—	17.23	—	—	

総合内科は、主に高齢の患者さんを多く診ています。高齢者に多い誤嚥性肺炎、敗血症（尿路感染症が原因であることが多い）などが主な疾患です。もちろんER（急病センター）で初期治療を行った若年者のその他の疾患の診療も行っています。施設や療養型の病院からの入院も多く、家族そして多職種と連携して退院調整にあたり、その後の療養がうまく行くように調整を行います。